

東京・北千住から南千住を歩く

鷗外、芭蕉ゆかり 金八ロケ地も

東京都足立区の北千住駅は、4社5路線が乗り入れるターミナル駅。「日本全国、北は北千住駅から南は南千住駅まで」という、ローカルギヤグに触発されて、駅から真つすく南へ歩いてみた。

千住は江戸時代、日光街道の宿場町であるとともに流通の街としても繁栄した。神田、駒込と並び江戸三大青物市場と呼ばれ、戦前まで活気あふれる問屋街だった。現在商店街としてにぎわう旧日光街道沿いには、当時の店や問屋名を書いた木札があちこちに下げられている。

文豪・森鷗外ゆかりの石碑「森鷗外旧居橋井堂跡」は、鷗外が千住で、父と医療活動に従事していたことを今に伝える。この頃の様子は、短編小説「カズイスタカ」に描かれている。

千住大橋は徳川家康が江戸に入って、隅田川に最初に架けた橋。その近くには、俳人

・松尾芭蕉の像がある。1689年、深川から船で千住に赴いた芭蕉は「行春や鳥啼魚の目は泪」という矢立での初めの句を詠んでAへの旅に出立した。

隅田川を渡ると、荒川区の南千住。南千住駅近くには小塚原刑場跡がある。小塚原は品川の鈴木森と並ぶ仕置き場で、江戸時代、はりつけや斬首が執行されていた。跡地は延命寺で、大きな首切地蔵が無縁仏を静かに慰めている。

小塚原は、「解体新書」を著したBや前野良沢らが腑分けに立ち会った場所としても知られる。刑死者らを供養するために開かれた回向院には、解体新書の扉絵をかたどった記念碑がある。

また回向院には吉田松陰、橋本左内ら幕末の志士の墓がある。近年、アントニオ猪木さんら数々のプロレスラーを育成し「プロレスの神様」と称された、カール・ゴツチさんの墓も建てられた。



左の記事を読んで下の問いに答えましょう。

1 傍線部①～③の漢字の読み方をひらがなで書きましょう。

①		②		③	
---	--	---	--	---	--

2 筆者が歩いた道を右の地図の上で、線を描いてたどりましょう。



3 空欄Aに入る書名を漢字で書きましょう。

4 空欄Bに入る人物名を漢字で書きましょう。

NIEワークシートのこたえ（2024年3月6日公開）

◆ワークシート「東京都北千住から南千住(社会 国語)」

2024.3.6付 朝刊

わがまち 解答

- ① あおももの
 - ② とんや (といや)
 - ③ くよう
- 3 奥の細道
- 4 杉田玄白

2

